

(概要版)

気がかりな姿のある児童が安定した気持ちで 授業に取り組む支援の工夫

—通常の学級への巡回指導による児童・担任・通級指導担当をつなぐ
スクラムカードの活用を通して—

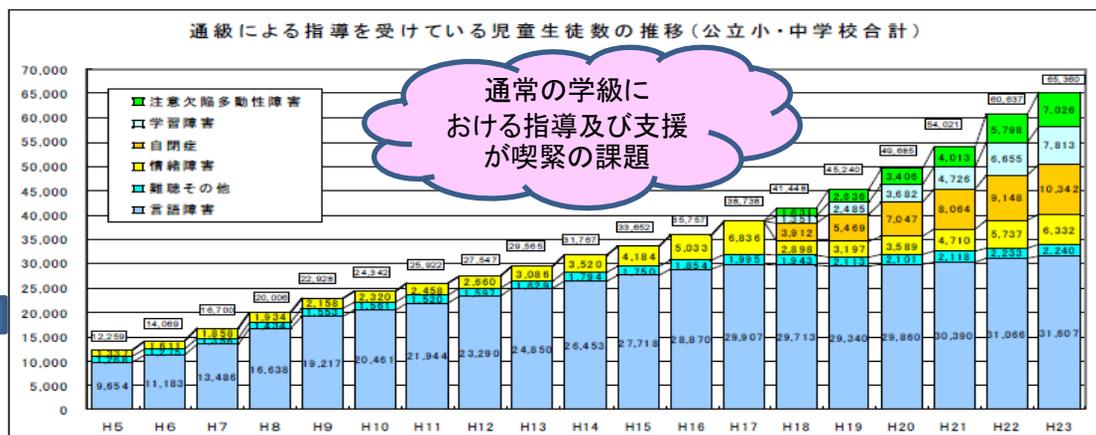
長期研修員 渡辺 直子

研究の背景とねらい

通常の学級で特別支援教育のニーズが高まっている

通級による指導を受けている児童生徒が増加しているということは、同時に、通常の学級に在籍する特別な教育的支援を必要としている児童生徒が増えているということです。

文部科学省HP「平成23年度 通級による指導実施状況調査結果」より



担任一人に支援を任せるのではなく、連携した適切な支援が必要

必要な児童には通級指導担当が巡回指導を行う

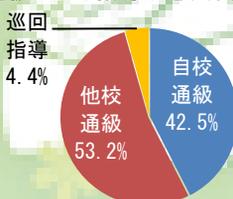
気がかりな姿のある児童

- 障害の有無にかかわらず特別な教育的支援を必要としている児童
- 自己肯定感の低下により二次的な障害をおこなしている場合がある

担任

- 学級での特別支援の必要性を感じている
- 日々の多忙さに追われている
- 支援方法が分からない、支援がうまくいかない

文科省HP H23年度調査結果より
通級による指導形態割合



巡回指導の充実が必要

『通級による指導の一層の充実』

他校通級では児童生徒の移動による心身の負担や移動時の学習の保証などの課題を極力減らすために、教員の巡回指導等を増やす環境整備、職員体制の充実が必要である(抜粋)

文科省 中教審 (H24. 7. 23)
共生社会の形成に向けたインクルーシブ教育システム構築のための特別支援教育の推進

これらの背景から

ねらい

小学校の通常の学級における気がかりな姿のある児童を通級指導担当の立場で、授業に入り込んで支援する巡回指導において、スクラムカードを活用して支援することにより、児童の自己肯定感が高まり、安定した気持ちで授業に取り組めることを明らかにします。

スクラムカードの活用

児童が目標をもつ

教師の連携した支援

目標達成

じぶんはっけん！シート① 2年生

じぶんの すきなことや できることを しろう

名前	A	見
先生や 友だち かぞくの 話せるのが好き		
先生や 友だち かぞくに 話せるのが好き		
自分でできることを 話せるのが好き		
自分から 先生や 友だち かぞくに 話せるのが好き		

児童の実態を捉え、担任と共通理解を図った上で、児童と話し合って目標を決めよう

じぶんはっけん！シートだけでなく、個別の指導計画や他のチェックリスト、心理検査などからも実態を捉えよう

自分でチェックして得意不得意が分かるよ

児童 通級指導担当

ノートを書くことが遅れる原因となる姿

担任

児童の目標に対応した支援方法をフォローシートを参考に決めよう

学習面	フォローシート①	「えらんでやってみよう！」	TRY! 個別の支援
1 聞き取れないことがある	聞き取れないときは、必要な情報をもう一度「聞く・はっきり・ゆっくり」話そう	聞き取れていないときは、必要な情報をもう一度「聞く・はっきり・ゆっくり」話そう	聞き取れていないときは、必要な情報をもう一度「聞く・はっきり・ゆっくり」話そう
2 聞き取れると聞き取れないが、集団場面では聞き取れないことがある	聞き取れると聞き取れないが、集団場面では聞き取れないことがある	聞き取れると聞き取れないが、集団場面では聞き取れないことがある	聞き取れると聞き取れないが、集団場面では聞き取れないことがある

カードに明記したことを授業で実行

ソフトケースに入れる(2つ折りでB6サイズ)



シールを貼る場所はケースをカットしてある

スクラムカード

年 組 名前 ()

月	10/4	10/5	10/9	10/11	10/12
やってみよう!					
じぶんはっけん!					
今日の授業は分かったかな?					

最初はできることを一つだけ目標にしたよ
低学年だからなぞって書いたよ

スクラムカード	スクラムカード	スクラムカード
担任 ()	担任 ()	通級指導担当 ()
児童の目標	担任の支援を書く	通級指導担当の支援を書く
やってみよう!	支援方法	支援方法
みんなと同じペースでノートを書く	ノートの書き始めが遅れないよう、スタートしやすい指示をする	聞き取れていないときは必要な情報をもう一度「聞く・はっきり・ゆっくり」伝える
声が大きすぎないようにつづける	黒板を3分割するなど同じペースで書き進め、分かりやすくする	同じペースできているときに、すぐできていることを認める。ノートに丸を書く
手悪さをしない	クラスのルールを徹底する(声の大きさ)	本児が、自分の状態が分かるように伝える(声の大きさ)
今日の授業は分かったかな?	通級に授業に取り組んでいる児童をほめてクラス全体を落ち着かせる	適切な声の大きさのときに、めいめい定着させよう
今日のじゅぎょうでできたことにシールをはろう	指示は一時一事で明確にする	思考を要する問では個別に説明したりヒントを与えたりして取り組めるようにする
	十分なできた支援に◎ 少しでもできた支援に○ できなかったは空白 必要なかった支援は/	十分なできた支援に◎ 少しでもできた支援に○ できなかったは空白 必要なかった支援は/

授業のねらいを書く

環境調整が主
クラスのみならずも有効

個別の支援が主
できることを伸ばす

通級指導担当の専門性も生かそう



担任の個別の支援も大切に

個別の支援はささやくような声で

児童の自己肯定感の高まり

ポイント 児童が目標を意識できるように

- 必ず、できたシールが貼れる目標を1つ入れる
- 話し合いでの児童の思いを大切に、達成できそうと思うことを目標にする

話し合いの様子

(じぶんはっけん！シートを見ながら) 得意なことがいっぱいあるね。算数の勉強でがんばりたいことある?

みんなと同じペースでノートを書きたい

そう思っているんだ。これを一つ目の目標にしようか

うん、そうする(カードに目標を書く)

授業の始まりの時間に着席できるようになってきたんだって、これを目標にしようか

できるようになりたいけど、チャイムが鳴ってもっと遊びたくなっちゃうから目標にはしない

目標にはしないんだね。分かったよ

ポイント 支援方法を繰り返し見直す

- 現在、担任がしている支援で効果的な支援を強化する
- 児童が達成できそうと思えるように事前に支援する

見直して削除

スクラムカード	スクラムカード
担任 ()	通級指導担当 ()
支援方法	支援方法
指示は一時一事で明確にする	聞き取れていないときは必要な情報をもう一度「聞く・はっきり・ゆっくり」伝える
十分なできた支援に◎ 少しでもできた支援に○ できなかったは空白 必要なかった支援は/	十分なできた支援に◎ 少しでもできた支援に○ できなかったは空白 必要なかった支援は/

見直して追加

- ・目標設定の前に、担任と通級指導担当が連携してクラス全体と個別にルールを徹底するなど、児童が達成できそうと思えるようにあらかじめ支援しよう
- ・児童は「自分ができる」という気持ちから自己肯定感が高まります

ポイント 適切な行動を強化

- 適切な行動が取れたときはすぐにほめる
- 不適切な行動は何がよくないのかを教える
- 授業後のシール貼りでは目標を達成できたかを評価するのではなく、適切な行動を確認する時間にする

先生が計算の仕方を説明していたとき、手悪さをしなかったね

できたシールを貼る

これもできたシールを貼る

分かったできた私、大丈夫だよ

スクラムカードにシールを貼るときは担任と通級指導担当と一緒に児童をほめる時間にしよう

安定した気持ちで授業に取り組む

研究の結果と考察

実践期間 前期10月2日～19日 後期11月12日～30日

目標 「声が大きすぎないように気をつける」

教師の支援

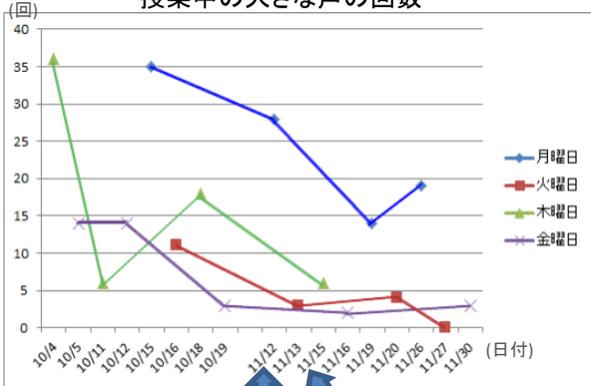
 クラスのルールを徹底する(声の大きさ)
適切な児童をほめてクラス全体を落ち着かせる
担任

 A児の例

 本児が自分の状態が分かるように教える
適切な声の大きさのときはほめて定着させていく
通級指導担当

結果

授業中の大きな声の回数



11月12日～13日
「声の大きさ」をカードを使って
担任がクラス全体に指導
通級指導担当が個別に指導

11月15日
「声が大きすぎないように
気をつける」目標設定

考察

目標設定前に担任と通級指導担当が連携して支援をしてA児がある程度できるようになってから目標にしたことにより目標を意識でき支援の効果が上がったと考えます。



A児は担任や友達に注意されることが少なくなり、通級指導担当が個別に支援する時間も少なくなりました。

目標 「授業中に手悪さをしない」

教師の支援

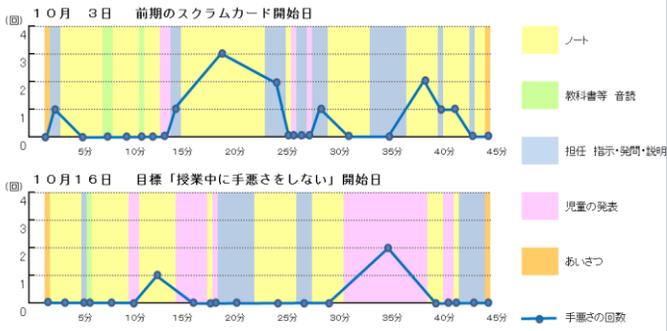
 指示は一時一事で明確にする
すき間の時間ができないような授業展開にする
担任

 B児の例

 思考を要する問題ではヒントなどを与えるようにする
すき間の時間が長いときは暇にならない指示をする
通級指導担当

結果

授業中(算数)の手悪さの回数



考察

B児は自分ができそうだと考えていることを目標にするので、目標設定のときによく話を聞いてあげることにより、目標を意識でき支援の効果が上がったと考えます。



B児は手悪さが減少したことにより、担任の話を聞いて挙手する場面が見られようになりました。

研究のまとめ

成果

- スクラムカードの活用によりカードを媒体として、児童、担任、通級指導担当がつながりを持ち、児童がほめられる時間を共有し、児童が安定して授業に取り組むための支援方法を試行錯誤する時間も共有することができました。
- スクラムカードの活用により、担任が支援方法を意識するようになり、対象児童だけでなく、クラス全体にも有効な支援を意識して行うようになりました。
- 児童を支援するときには、叱咤激励や注意を繰り返すのではなく、適切な行動をしたことを取り上げてほめることにより、児童は自己肯定感が高まり、安定した気持ちになることが分かりました。
- 通級指導担当が通常の学級に在籍している気がかりな姿のある児童を、通級指導教室で指導するだけでなく、授業に入り込んで支援する巡回指導との併用が有効であることが分かりました。

課題

- 児童が適切に行動するようになるとそれが当たり前になり、教師はほめることを忘れてしまいがちなので、ほめて達成感を感じられるようにすることを忘れずに行っていきたいです。
- 通級指導担当が教室に入り込んで支援することが担任の負担とならないように、担任に行ってほしい支援をアドバイスするより、担任が行った支援の中で効果的であったことを伝えることを大切にしたいです。
- 担任と支援方法を見直す時間の確保が難しかったので、スクラムカードの評価も記入できるような意見交換ファイル等を作成していきたいです。